

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	1690200314		
法人名	トータル・メディカル津沢(株)		
事業所名	グループホームひだまり南星		
所在地	富山県高岡市佐野1095-2		
自己評価作成日	令和4年9月25日	評価結果市町村受理日	令和4年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人富山県社会福祉協議会
所在地	富山県富山市安住町5番21号
訪問調査日	令和4年10月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・グループホームひだまり南星は、介護複合施設あったかハウスひだまりの中にあり、デイサービスご利用者様との交流もあり、明るくにぎやかな環境です。

・特にアピールしたい点は、食事に関しては家庭的な料理を基本に、近所のスーパーで毎日買い出しをし、職員が手作りをしています。散歩のついでに施設周りの畑の野菜を摘んで、新鮮な野菜を提供しています。高齢者の好みに合った優しい味付けを心がけ、出来るだけ個々の嗜好を考えて提供しています。

・訪問歯科や訪問マッサージを希望者には実施し、今年から歯科往診後、月に2回の歯科衛生士による口腔クリーニングをして頂いている。今後も医療連携に期待できます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・市街地に所在している。通所介護や居宅介護支援事業所も併設されているほか、同一法人内には他所に複数のグループホームがあり、法人全体での情報共有や、合同研修など利用者目線での運営を心掛けている。

・事業所横には畑があり、事業所で育てた野菜を使うなど、季節を意識した家庭的な料理を手作りで提供している事は大きな特徴である。

・管理者や法人の福祉責任者は、平素から運営や支援に対して研鑽を重ねている。請求書の発送時には、ひだまり通信に、管理者の手書きで良いことや気づいたこと記載したものを個別に同封するなど工夫を重ねて、利用者や家族に安心を提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念に基づき事業所独自の理念をつくり、朝の申し送りの際に理念の唱和を行い共有に努め今日の認知症ケアの実践に活かしている。	法人理念を基に事業所独自の理念「支えあう、寄り添う、触れあう、話しあう」を掲げ、タブレットの待ち受け画面に設定し、毎日確認できるようにしている。共有の工夫や方法はユニットごとの独自性に一任しているが、十二分にその効果が発揮されていないと管理者は感じている。	ユニットごとに一任されている事業所理念の共有方法を、更にユニットごとに深めて指針などを検討し、より利用者のためのサービスの質の向上につながるよう期待したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地域の体操や行事に参加できない状況である。民生委員との交流を深め地域の活動状況については確認している。	コロナ禍のため、積極的な地域活動参加は控えているが、地域の神社で2年ぶりに祭礼があり獅子舞見学に出かけている。管理者は近隣校区の民生委員に2か月に一度電話連絡を行い、地域の情報収集を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を開催できない状況であっても利用者の現状についてどういった支援を行っているかを書面にて報告している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催が難しい状況が続いているが現状報告を郵送したり、電話で意見や感想を頂いた。	コロナ禍で開催が厳しい状況だが、令和3年11月、令和4年9月の2回実施した。欠席者には議事録を郵送し、職員間でも共有している。中止の折には会議資料を郵送し、電話にて意見や感想を求め参考にしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	第6波新型コロナウイルス感染の拡大が見られ、集団感染時には市の担当者とは何度か連携をとり、人員不足についての相談に乗って頂き、物品等の援助を頂いた。	事業所にて感染の拡大が見られた折には、県に情報提供を行った。市高齢課とは連携をとり、病院から医師の派遣グループの応援指導や物品援助があった。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に一度委員会を開催し、身体拘束を行わない対策を考え、またその人、家族が望む生活を出来る限り実現できるように努めている。身体拘束の弊害について勉強会を予定している。	ユニット合同で虐待防止委員会を設け、身体拘束についての説明記録をまとめている。骨折にて入院の利用者が退院した折には、危険回避ではなく本人の意向を重視して歩行器支援に取り組むなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアを振り返り、継続してアンケートをとっている。前回よりも良い結果となるように実践に活かしてもらっている。夜間帯はユニット同士で助け合える対策をとり精神的な負担の軽減に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修で学んだり、地域の相談会に出席し、成年後見制度について学んだ。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項と契約書の説明を行い、納得して署名を頂いている。また、加算等変更事項があった時はその都度説明文書を郵送し了解を得て同意をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置したり、請求書に手紙を添えて面会等の要望、意見があれば聞いている。	6ヶ月ごとの計画作成時に、積極的に家族から意見を引き出している。コロナ禍で面会は玄関で行っているが、面会簿に意見のお願い等の文書を添えている。家族から出された意見(駐車スペース不足の問題等)は今後対処する予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の中で要望があればグループホーム全体に提起したり、本部に稟議書を提出するなど相談をしている。	日常業務の中で、管理者または各ユニットの主任が職員から意見を引き出している。職員から、看取りを想定して、本部に家族用のソファベットの購入を提案され設置するなど、意見は十分に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課において、管理者、主任は個々の職員の評価を行い、代表に報告している。また人間関係についての相談をその都度受け調整を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体でeラーニングでの学習を各自毎月のテーマに応じて進めている。今年度については希望者のみで行い習得状況を確認する。介護福祉士会の認知症に関する研修にも取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護福祉士会の認知症実践者研修に参加して他事業所との交流を図る。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接や入居時に、困っていることや要望の把握をしている。個々のニーズを皆で共有し、良い関係性が図れるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時や契約時に、不安要素や要望について聞き取り本人、家族が望んでいることに出来る限り応えられるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の相談時に、本人の状態に応じてまず何に対してどのようなサービスが必要なのか助言を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊敬する気持ちを持ちながらも、その人の能力やニーズに応じて日常生活作業に参加して頂いている。時には教えて頂きながら一緒に行うことを基本にしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調面、精神面に変化があれば家族に連絡をし情報共有している。家族も支援者として受診の付き添いや、要望に応じて買い物支援に協力いただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室に訪問して頂いたり、利用が出来るように努めている。	訪問マッサージや介護美容師の来所があり、利用している。コロナ禍のため、イベント的な外出は控えている。畑作業や散歩などは行われているが、近所にある利用者個々の馴染みの場所まではアセスメントできていない。	軽作業の外出や散歩などは既に実施されているが、利用者個々の馴染みの場所を見つけ出すなどさらなる工夫に期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関わりあい、支えあいを理念の中に取り入れ、日常の様子を観察し、関係性に配慮しながら席替えを行ったり職員が介入しコミュニケーションがとれる支援を心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、一旦ショートステイに入所された方の経過について、家族の不安や悩みに寄り添い相談に応じた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画の見直しの際には本人と面談をし、生活に対する要望、希望を聞いている。確認できない場合は普段からの言動や、本人に代わって家族から聞き取りを行っている。	管理者、主任、計画作成担当者いずれかが1対1で利用者から思いの聴き取りを行っている。家族には、定期的に管理者が電話でヒアリングを行い、要望を確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の家族からの聞き取りや、担当で介護支援専門員と連携をとり生活歴の把握に努め、皆で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録、業務日誌への記録、また連絡ノートを活用し現状把握の共有に努めている。また申し送りの際には心身状態について変化あれば報告している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議の際には、新たな課題やその解決策を介護職、看護師と話し合いの場を持っている。また事前に本人と面談したり、また面会の際に家族と話し合いの場を持つようになっている。必要時には福祉用具関係者にも助言を頂いている。	月に一度はカンファレンスを開催し、管理者はそれぞれのスタッフの意見を吸い上げるようにしている。築き上げた馴染みの関係から、本人の意向は把握している。家族は安心しての方が多く、要望はあまりない。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットに支援経過として各自記録に残している。心身の状況について実践結果を残し日々のリーダーが記入漏れが無いチェックをしている。3ヶ月に一度のモニタリングにも活用して。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族に代わって受診の付き添いを行ったり、ニーズに沿って買い物代行を積極的に行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	活動の把握には努めたが、コロナ禍により地域の活動には参加できる機会が無かった。編み物等を地域の文化祭のバザーに提供を予定している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には在宅でのかかりつけ医の継続を支援している。家族から要望があった際は往診医を紹介している。	以前からのかかりつけ医がメインではあるが、希望によって協力機関等を紹介している。往診（訪問診療）、受診先一覧表を作成して管理している。受診には多くの利用者に管理者が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専属の看護師が定期的に勤務し利用者の健康観察を行っている。看護師が不在時は軟膏処置等、申し送りを密に行い適切に対応し、記録に残し、報告・連絡・相談が良く行われている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には速やかに介護サマリー（アセスメントシート）を提供し、また地域医療部や専門職と連携をとりながらできるだけ早めの受け入れ体制を整えている。家族に代わり協力できることは積極的に支援するよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の段階で看取りについての説明を大まかにを行い、本人の状況に応じてその都度家族、主治医と話し合っている。本人の意思表示が出来ない場合が多く、家族とは密に意思確認の連携をとっている。	看取りの実績がある。今後もあり得る看取り対応に向けて、様々な実践を行っている。職員の入れ替わり等で、初めての経験となっているスタッフには、改めての説明指導や勉強会を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	専属の看護師により処置の仕方や急変時の対応を学んでいるが定期的な訓練は行っていない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害時のマニュアルを作成したり、地震対策に取り組んだが地域との協力体制については、地域の活動、現状を把握するのみとなっている。	来年度中に作成が求められているBCPは法人総務課で作成中である。コロナ禍で地域との交流が難しくなり、令和3年3月以降は避難訓練が実施されていない。	事業所における消防避難訓練は消防法で定められているため、併設事業所等との協同開催など、工夫を加えて早急を実施することが望ましい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	虐待、身体拘束の勉強会やアンケートを実施し日々の対応を振り返る機会を作る。不適切な対応を見た場合でも、職員同士が声を掛け合えるような職場作りに努める。	法人として研修会を重ねるなど、種々の手法で人格の尊厳や身体拘束などの理解を深めることに努めているが、管理者は職員間での経験差が顕著になってきていると感じている。	全体での勉強会だけにとらわれず、経験値に合わせた少数の研修会を行うなど、職責ごとでレベルの平均化を図ることでトータルでの資質向上に努めることに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が希望を言いやすいようなコミュニケーションや声がけを心掛ける。欲しいもの、食べたい物の要求に応じ購入提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゲームや体操、散歩など活動的に過ごされる方、居室で休まれる方など、その方の思う過ごし方に寄り添い希望に沿った対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度希望に応じての散髪、整髪ではピンやゴムで髪型をアレンジしている。着替えの際、洋服を一緒に選び利用者自身が決められるよう対応に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	イベント時期には、普段と違った食事を提供し楽しみながら食事が出来るよう対応している。旬の物を取り入れ季節を感じられるような食事を提供している。	事業所、ユニットごとに独自の献立ですべて手作りされ、温かみのある食事となっている。新聞の広告を利用者と一緒に見て買い物に行くなど、食事が楽しい時間となるような工夫が随所にされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に応じた食事量、食事形態の配慮、食器の重さや食器の形も考慮し食べやすさを考え提供している。摂取量が少ない場合、好みの物を提供し、少しでも摂取出来るよう対応する。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に一度歯科医の往診以外に、口腔内クリーニングをお願いしている。ブラッシングが不十分な方には歯科医から指示を受け介助を行い、清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えのある方には、その都度迅速にトイレ誘導を行っている。排泄間隔を確認し、声がけ、誘導を行っている。	スタッフと利用者は馴染みの関係性が築かれており、利用者の排泄タイミングを理解して声掛けなどが適切に行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足にならないように摂取量を把握し、便秘の際は牛乳を提供したりトイレ誘導時に腹部マッサージを行っている。便の形状を常に把握し内服の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回以上、入浴日を設けている。無理強いせず個々の体調を見ながら入浴支援している。	入浴は定期的に丁寧に行われている。管理者は時間や回数を特定することを改善できないかと考えている。	入浴スタイルにも個々によっていろいろ考えられるため、一人ひとりの希望に沿った入浴手段や時間をスタッフで話し合い、利用者のQOLの向上に繋がるように努めることに期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の身体状況に合わせ、適度に静養を行っており、希望があった場合は昼夜逆転にならない程度に居室にて休んでいただく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は看護師が行っていることから介護職員の理解がやや少ないが、変更時や副作用について申し送りをお願いしている。状況の変化については都度、経過記録への記載を行い全体で情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味嗜好を把握し、好みのDVD鑑賞、音楽鑑賞を行ったり、個々の能力や身体状況に合わせたレクリエーションを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍ではあるが感染状況を見ながら、個々の身体状況に合わせ、ドライブに出かけたり、馴染みの美容室へ行けるような対策を講じた。	敷地内に畑があり、野菜を収穫しに行ったり、散歩したりして、ちょっとした外出ができるように工夫しながら支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて家族に相談している。適度な金額を所持することで安心して頂き、買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から手紙が届いた際には希望に応じて葉書を購入したり、その都度本人から電話をかけて直接やり取りができる支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレには、わかりやすい表示をしたり、廊下には利用者の写真を掲示したり、居間には季節感を感じて頂けるような貼り絵を掲示している。	広いリビングで自由に歩いたり、テレビを楽しんだり、新聞を読んだりするなど、思い思いに過ごすことができるようになっている。各所にソファ等が配置され、それぞれが落ち着く場所で過ごすことができるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファを設置し、誰でも気軽にリラックスできるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅から馴染みのものを持参いただき、居室を出来るだけ安心できる場となるように家族には説明している。	長く入居している利用者の居室も、きれいに整理されている。それぞれの居室に家族の写真や孫たちの書いた絵などが置かれ、家族との関係も保たれるような工夫もされている。入院時にはその都度の解約はされずに部屋代だけでキープしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いす生活になっても、立ち上がりや移動がしやすいようにベッドにL字柵を設置し自立支援に努めている。		

目標達成計画

作成日: 令和 4年 12月 20 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	1	・事業所の理念を掲げているが、共有方法が曖昧で、全体として共有されていなかった。共有方法について議論、検討がされていない。	・理念については掲げるだけのものにならないように共有方法を各ユニットで議論し、実践できるようにする。	・共有方法として理念の唱和を行っているが、令和5年度については、改めて皆で理念を考え、実践、評価を行っていく。	3ヶ月
2	20	・散歩や個人的に買い物に出かける等全体で取り組んできたが、利用者個々の馴染みの場所を見つけ出し取り組む努力が足りなかった。アセスメント不足な点がある。	・現在利用者様の重度化が見られるが、各利用者様の再アセスメントを行い、出来る人から実践してみる。	・インテークの段階でアセスメントし、入居時の契約の際に馴染みの場所など本人についての聞き取りを特に家族に行っていく。	5ヶ月
3	35	・コロナ禍ということもあり、消防避難訓練が実施できていない。併設事業所等との協同開催など、工夫していかなければならないと思いながらも実践できていない。	・併設事業所と協力し、年間計画を立てる。	・各事業所にて担当者を決め計画的に行っていく。	6ヶ月
4	36	・グループホーム全体としての勉強会や研修を行ってきたが、外国人職員も増えたこともあり、職責ごとやレベルの平均化を図ることが求められる。トータルでの質の向上に欠けている。	・研修のあり方について今一度方針を決め、1カ月に一度の全体研修の他に、新人研修としてベトナム職員等個別に研修会を行っていき、全体としてのレベルアップを図る。	・認知症に対する知識が深められるように、認知症基礎研修への参加を進めていく。その中で個別に対応できるようなシステムを法人全体で考える。	6ヶ月
5	45	・入浴方法について現在はほぼ施設側の都合で決められた時間に行っているが、入浴スタイルには個々によって色々でと考える。利用者個々のQOLの向上に繋がるように利用者主体で考える努力が欠けている。	・入浴については、事業所、職員の都合に合わせるのではなく、各利用者様の再アセスメントを行い、入浴方法について検討してみる。	・シャワー浴や、入浴拒否のある利用者さんに対してアセスメントに沿って入浴時間や、入浴スタイルを変更して実践してみる。	3ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。